行動する環境アドバイザーの会報

GREEN ニュース

第 91 号 2023 年

環境アドバイザー連絡協議会
第 12 期　代表　西村 豊
令和 5 年 1 月発行
創刊 平成 5 年 7 月 16 日

渡良瀬遊水地からの朝日

渡良瀬遊水地は、栃木・群馬・埼玉・茨城の 4 県にまたがる面積 33km²、総貯水容量 2 億 m³の我が国最大の遊水地です。2012 年 7 月にラムサール条約登録湿地となっています。

広大なヨシ原に川霧が漂う幻想的な光景のなか、日の出とともに鳥たちが活動を始めます。

広報委員　酒井義明

群馬県環境アドバイザーの登録状況（2022 年 12 月 28 日現在）

第 12 期（登録期間：2021 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日）の登録者数は、更新者、新規登録者を含め、合計 350 名です。自然環境部会 145 名、温暖化・エネルギー部会 111 名、ごみ部会 90 名、広報委員会 33 名が登録し活動されています。

群馬県の環境情報サイトに、環境アドバイザーのページ開設

群馬県環境情報サイト ECOぐんま　http://www.ecogunma.jp/

環境アドバイザーのページへ直接アクセスは、下記 URL へ
http://www.ecogunma.jp/?p=3058
県内の環境イベントカレンダーをご活用下さい。
http://www.gccca.jp/volunteer/

目次

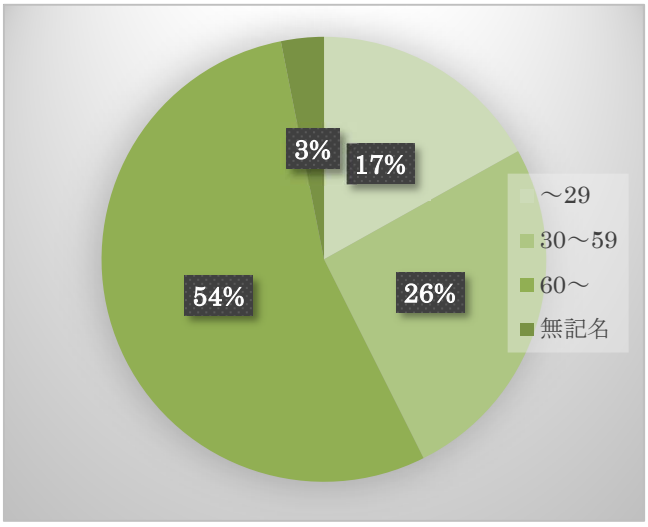
P2　環境アドバイザー登録の現況
P3　食品ロスアンケート調査
P4　温暖化エネルギー部会報告
P5　ゴミ部会報告
　SDGs 芸人/ 環境カウンセラー/アンカンミン
P6　食品ロス削減推進サポーターご紹介
　上州会議 2022 開催報告
P7　2022 環境フォーラムに参加して
P8　連絡協議会の今後の予定・編集後記

環境アドバイザー登録の現況

環境政策課環境サポートセンター
角張　俊明

令和 4 年 12 月 28 日現在で 350 名の方々が環境アドバイザーとして登録されています。

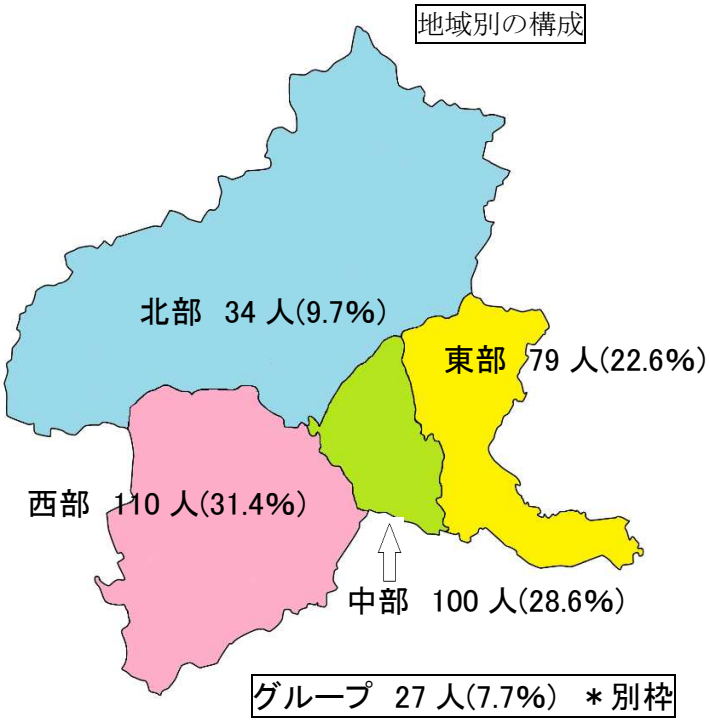
年齢別の構成



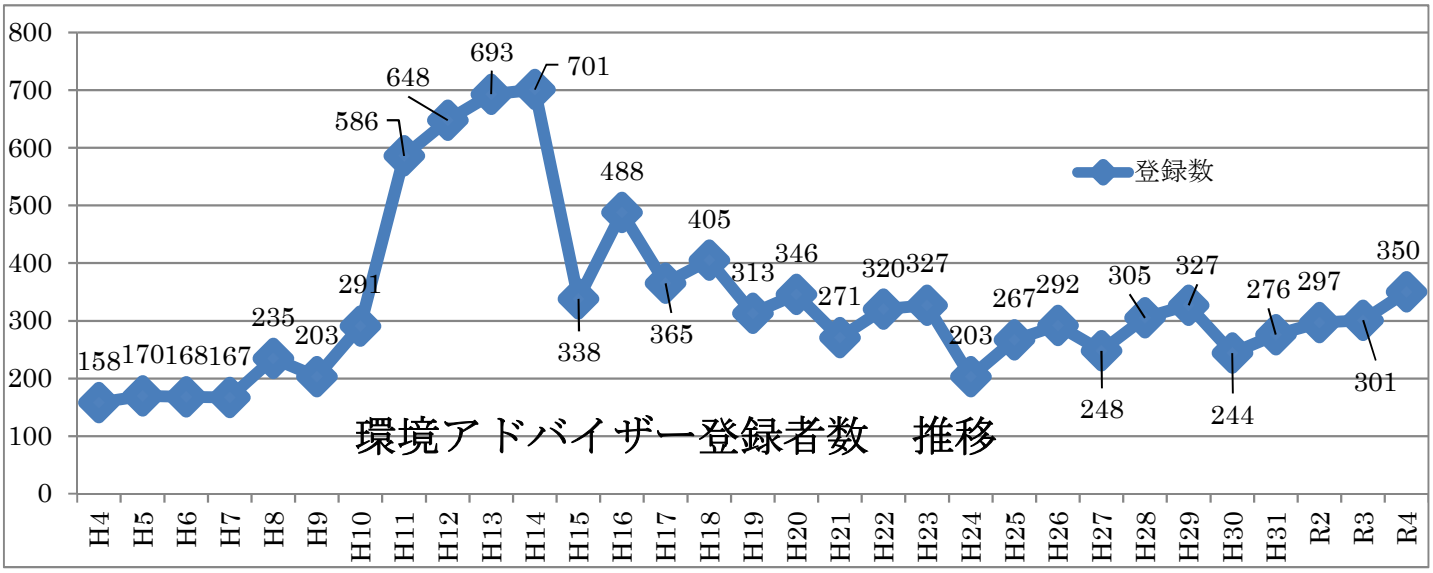
・60 歳以上の方が半数を占めています。

・昨年 12 月新たに若年層の方々が多数登録しました。

地域別の構成



登録者数の推移　H8 年度より地区推薦から自主登録へとなりました。



令和 4 年 12 月 1 日から環境アドバイザー応募資格が「群馬県内に居住→群馬県内に在勤又は在学若しくは居住 」になりました。 これは、エコカレッジの受講条件との整合性をはかるためでもあります。

この変更により、県外に居住していて群馬県内に通勤・通学する職場の同僚や、 学校仲間のみなさんも登録できるようになりました。 お知り合いに、該当する方がいらっしゃいましたら、この機会にぜひお誘いしていただければ幸いです。

「食品ロスアンケート調査」 ～関心の高さ確認～

沼田市　　角田和男

消費者庁食品ロス削減サポーターとして、今後の活動の足がかりとするため、１０月２３日(日)に開催された「ごったくまつり」において、『食品ロスアンケート調査』を行いました。アンケート調査用紙は６０枚用意し、１０歳代から７０歳以上の６０人（男性２３人、女性３７人）から回答をいただくことができました。

設問１「食品ロス」が問題になっていることをご存知ですか。

よく知っている（２７人）	ある程度知っている（３３人）

「全く知らない」と答えた人はなし。

設問２「食品ロス」を減らすために、心がけていることがありますか。（複数回答可）

回　答　項　目	回答数(人)
残さず食べる	**５０**
小分け、少量パック、バラ売り商品購入	３０
料理を作りすぎない	２９
冷凍保存を活用する	２７
冷蔵庫などの食材の量、消費・賞味期限を確認	１６
消費・賞味期限間近の値引き商品やポイント還元商品購入	１５
商品の手前どりや消費・賞味期限の近い商品購入	９

設問３　普段の生活でまだ食べることができる食品を捨ててしまうことがありますか。

回　　答	回答数（人）
あまり捨てることがない	**３５(５８．３%)**
時々(月２回)捨ててしまうことがある	１８(３０．０%)
捨てたことはない	７(１１．７%)
頻ぱん(週に数回）に捨てる	０(なし)

設問４　終わりに、料理のリメイクや野菜をムダなく使う工夫を教えてください。

●アンケート記入結果のご紹介

大根の皮はキンピラにして使う ／ えのき茸の芯は焼いて食べる／乾燥した柿やりんごの皮はぬか床に入れる ／ ゆずやミカンの皮は入浴剤代わりに使う／ニンジンのヘタ、玉ねぎの皮、白菜やキャベツの芯などでダシ汁を作る ／ 野菜はなるべく捨てずに、スープのダシに使うようにしている ／ 食べきれない野菜はミキサーで撹拌し、ペースト状にしてポタージュにする ／ 残った野菜は漬けておく ／ 食べ残した漬物は天ぷらにする（すごく美味しい）／ 食べ残したものは「おやき」にして食べる ／ 食べ残したものに他の食材を加えて味を変えて食べる（味変）／ 残りものはフライパンに移し、他の食材を加えて食べ易くする ／ 食べ残したものは雀や動物に与える ／ 畑に埋め堆肥代わりにしている ／ 食べ残ったものを活用したレシピをウェブサイトに載せる／作りすぎないように心がけ、それでも食べ残ったものは、翌日以降に食べる／食べきれない野菜などは近所の方に差し上げる

見学会を企画して

温暖化・エネルギー部会　高橋陽子

令和 4 年 10 月 27 日、伊勢崎市のリサイクルセンター21 及び浄化センター施設見学会を企画・開催しました。平日の開催でしたが、部会以外の環境アドバイザーの方など 16 名の参加を頂きました。伊勢崎市のリサイクルや再エネへの取組みなど、普段、不思議に思っていたことを現地で職員の方に回答してもらい、皆さんで振り返りながら考察することで、新たな方向性も見られ大変勉強になりました。

今回の見学会で浮彫になったのは、ゴミの最終処分場は、あと十数年で満杯となり、ゴミの削減は重要課題となっていることでした。伊勢崎市では、下水道への生ごみのディスポーサー活用も行っているとのことで、流れてきた有機物はバイオガス（メタン発酵）発電をして有効活用していました。

生ごみを減らすため、水切りなどを進めるほかに、別回収をして堆肥化するなど案も上がりました。焼却施設での熱利用発電は、砂粒を炉内に対流させることにより、燃焼効率を上げ、その熱により発電を行っていました。　また、浄化センターの小水力発電施設は故障中で稼働はしていませんでしたが、昼夜で水位の変わる水路に於いて「サイフォンの原理」を用い、少ない水位でも小水力発電ができるのは、街中の水路などでも有用であると感じました。

今回、事前に質問を募ったことで、市の職員さんも数値など詳細を前もって調べる事ができとても良かったとのことでした。リサイクルの現状や再生可能エネルギー技術の取組み事例を皆さんの意見を交えながら見学でき、また、自治体の職員さんが身近なところで活躍する姿も垣間見ることができ、感慨深いひと時となりました。部会主催行事としてこのような機会を頂き、担当の方々はじめ、関係して頂いた方々に改めて感謝致します。今後も、私達の身近な資源の活用や諸問題を皆さんと共に考え進めてゆければと思いました。

ミックスペーパー？

ごみ部会　山田一朗

ミックスペーパーとは文字通り雑紙のことです。一部自治体などでは、雑紙のことをこう呼んでいます。言うまでもなく、資源物としての古紙回収は①新聞（折り込みチラシを含む）②雑誌・古本③段ボール④ジュース・牛乳紙パックの４種が中心でした。ところが近年、燃えるごみの減量策として注目され、多くの自治体で雑紙の収集が推進されています。雑紙とは、家庭から出される上記４種の古紙以外のリサイクルできる紙類のことです。具体的にはチラシ・パンフレット・包装紙・紙箱・紙袋などの紙全般です。その排出方法は大きさを揃えて、細かいものは紙袋に入れて、紙紐などで十文字に縛って出します。収集された雑紙はリサイクル工場に集められ①異物の除去②漂白③洗浄④脱水されて再生紙の原料となる古紙パルプとなります。雑紙の多くは段ボールなどに再生されています。

雑紙のリサイクルで最大の問題は、紙の中にはリサイクルできない禁忌品と呼ばれるものがあることです。禁忌品が資源物に混入すると、リサイクル工場において、品質の低下や機械の故障の原因となってしまいます。例えば臭いや汚れのついた紙、防水加工された紙、プラスチックやアルミでコーティングされた紙、カーボン紙、ノンカーボン紙、感熱紙、印画紙、アイロンプリント紙、ラミネート紙、壁紙、和紙、圧着はがきなどです。圧着はがきは官庁や金融機関などでも、最近やたら増えている印象があります。使用されている圧着剤が除去できずリサイクルできません。和紙は一般の紙とは原料が違うためリサイクルできないとのことです。和紙だけを集めれば可能かも知れませんが・・・。写真は印画紙で、レシートやFAX紙は感熱紙なのでリサイクルできません。紙コップや缶ビール６本パックの紙容器これも防水加工がしてあるので禁忌品です。調べてみると、様々な禁忌品があり驚きです。因みに少量のホッチキス針やクリップであれば、リサイクル工場で異物として除去されるので、そのまま雑紙として出せるそうです。科学技術の進展によって禁忌品の問題が解決されるまでは手間を厭わず、ミックスペーパーのリサイクルに取り組みたいと思います。

SDGs 芸人/環境カウンセラー/アンカンミンカン

みどり市　富所哲平

僕たちの当たり前の毎日が当たり前じゃないことがわかって、持続可能な開発のための目標（ＳＤＧｓ）の実現が、あちらこちらで求められています。数年前には、一般の方のＳＤＧｓ認知度が全国最下位だった群馬県が、「ぐんまＳＤＧｓイニシアティブ」を宣言するに至り、今では、2050年に向けて「ぐんま５つのゼロ宣言」という方向性が示されています。そしてその実現のために、県民に向けて気候変動等の環境課題解決に向けた取り組みを促す目的で、環境ＳＤＧｓファシリテーターの養成が始まりました。２カ月に及ぶ養成研修をもって、２０名の県公認環境ＳＤＧｓファシリテーターが誕生しました。カードゲームの「脱炭素まちづくりゲーム」や座学などを通して、脱炭素社会の実現に向けた具体的なアクションや、立場や業種を超えたパートナーシップの醸成を、誰もが体験できるプログラムになっています。機会を作っていきたいと思いますので、ぜひ皆さんも一度ご参加いただいてそれぞれの活動に活かして頂きたいと思います。

整理収納で食品ロスを減らしていけたら

伊勢崎市 尾高理恵子（食品ロス削減推進サポーター）

昨年７月に食品ロスサポーターの講習と試験を受け、食品ロスサポーターに登録させていただきました。

食品ロスとはまだ食べられるにも関わらず捨てられてしまう食品の事です。講座では消費者としてできる事、企業や団体としての取り組みや実践が事例で紹介され食品ロス削減対策について理解を深めることができました。

日本では食品ロスの約半分は一般家庭から出されています。家庭でのロス削減対策の一つに冷蔵庫・食品庫の整理があります。整理整頓が進み、冷蔵庫がすっきりして見える化されると食品のムダが無くなります。さらに家事時短、省エネ、お金の節約などの効果も出るので整理整頓は良いことづくめです。

私は整理収納アドバイザーとして皆さんの片付けスイッチを入れています。微力ですが整理収納で家庭からの食品ロスの削減にお役に立てたら嬉しいです。

上州会議 2022 の開催報告

高崎市　萩原　豪

12 月 3 日（土）、高崎商科大学において第 5 回上州ぐんま市民環境保全活動発表会＆交流会〈上州会議 2022〉（主催：上州ぐんま ESD 実践研究会）を開催しました。この発表会は県内における ESD や SDGs に関わる取り組みを紹介し、相互に交流する場とすることを目的に毎年開催されているもので、今年度は 10 件の発表が行われ、学生や社会人約 100 名が群馬県における実践や今後の社会の在り方について学びました。

基調講演は鹿児島県枕崎市の前副市長・小泉智資氏が「地方都市における観光まちづくりと SDGs への取り組み−鹿児島県阿久根市と枕崎市の事例から−」と題した講演をしていただきました。小泉氏は広告代理店に 36 年間勤務した後、内閣府の任命を受け地方創生人材支援制度により、鹿児島県阿久根市で地方創生特命参事としてまちづくりに取り組まれた後、枕崎市の副市長を務められた異色の経歴を持たれている方で、阿久根市・枕崎市で取り組まれてきた施策の中でも自治体のブランド価値向上の仕掛けづくりやメディア戦略などは「魅せるプロ」である広告マンの本領発揮と言えるものばかりでした。特産品であるカツオを用いた人を呼び込む戦略や、カツオの身が余すところなく使われていてエコなことなど、目から鱗が落ちる情報もありました。最後のスライドで出された「観光まちづくりと SDGs の取り組みと地方創生は元気に楽しく!」という一文は、正にこれからの群馬県での取り組みにも大いに参考となるものでした。

なお、上州ぐんま ESD 実践研究会に参加している萩原ゼミの学生 27 名が環境アドバイザーに登録しました。今後は群馬県内における ESD/SDGs に関わる活動に積極的に関わっていきたいと考えています。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

「2022 環境フォーラム（ごみ減量・脱炭素）」に参加して

太田市　古屋すみれ

11 月 22 日・23 日に、群馬県庁 32 階官民共創スペース NETSUGEN において開催された「2022 環境フォーラム（ごみ減量・脱炭素）」のごみ減量に関するプログラムに参加しました。2022 年 8 月に環境アドバイザーに登録されて初めての活動となりましたが、群馬県のごみ問題の現状や課題、今後の取組について学ぶ非常に良い機会となりました。

参加して印象に残った 2 点について述べたいと思います。

一点目として、企業の事例発表ではザスパクサツ群馬の自社のリソース、集客力、顧客層を上手く活用した取組が非常に印象に残りました。経営トップ自身が講演され、子供が親にごみの分別について教える様子が見られたといった興味深い（また勇気づけられる）エピソードも交えた興味深い話が紹介されました。ザスパクサツ群馬はＳＤＧｓ企業という好印象を持てました。

今後も地元企業もしくは地域に根差した企業の環境関連への取組が増えるよう、あらゆる場面でその成果をＰＲすると共に、行政の適切な後押しは非常に重要であると感じました。

二点目は、群馬のごみ問題解決に関する様々な意見やアイディアが寄せられましたが、「ごみ問題」は実に多面的な要素が絡むテーマであることを実感しました。

中でも、出演した方より「家庭から排出されるごみの量と種類を可視化する」というアイディアはごみ減量への一歩であると感じました。以前、都内で住んでいた区では指定袋の利用は義務付けられていないため、ごみの排出量は把握しづらかったのですが、太田市に移住して〇リットルの袋を〇個といった簡単な計算で自分の出しているごみの量の把握が出来るようになったことは新たな発見でした。体重と同じで、そもそも自身の体重を把握しないとダイエットにも取り組みづらいですね。

私からは東京での雑紙収集袋の無料配布によるリサイクル率アップの取組事例を紹介させてもらいましたが、他地域の成功例／失敗例に学びつつ、各々の地域の事情、特性を反映させた取組につなげて行くことが大事だと感じました。

広報委員会　小峯幸子

今回の環境フォーラムは、オンラインでも参加することができ、また後で YouTube でも配信されました。私は Day-1～わたしたちにできるごみ減量～の【第 2 部】山本知事と県民のオンライン座談会を拝聴しました。オンライン、オフラインでそれぞれにコメントされた内容は、家庭ごみの可視化、廃棄物のアップサイクル、県庁に入っている珈琲屋さんでのマイタンブラー持ち込み割引制度、自然分解する器や行政からの後押し、NPO・NGO による全世代への環境教育…と、多彩な分野、視点から発表されていました。それに対して山本知事が一つ一つコメントされることで具体化への期待も感じられましたし、自ら取り組むことへのヒントもあったと思います。

※＜https://www.pref.gunma.jp/page/100133.html＞　サイト内に YouTube へのリンクあり

広報委員会メンバーとして、これまで寄稿いただいた NPO の活動を盛り上げ、またしばらくご紹介できていない団体の発掘にも取り組んでいきたいと改めて思いました。ぜひ活動をご紹介させてください。

環境アドバイザー連絡協議会の予定

12 期代表　西村豊

1. 環境アドバイザー活動の報告会について

＜目　的＞

以前はゴミ減量フォーラム等環境アドバイザーが集まって意見交換や交流する機会がありましたが、コロナウィルスの影響等で数年開催されていません。グリーンニュースでは各部会や地区の活動も報告されていますが一方通行で、全体で意見交換をする機会がありませんでした。

アドバイザーが集まり発表や意見交換を行い活動がより活発になることを目的に下記の日程で報告会を開催します。

日時：3 月 15 日（水）11:00～15:20（予定）

場所：県庁 292 会議室

＜発表内容＞

部会・委員会：R3 年 R4 年の活動成果のまとめと意見交換。（各 30 分）

地区：行政との協働が進んでいる地区の活動内容や問題点を報告。（各 20 分）

個人：環境に関して個人で活動している内容を報告。（各 10 分）

＜申　込＞

地区と個人の発表希望者は 2 月 14 日（火）までに発表概要をまとめて環境サポートセンターに申込んで下さい。

2. 群馬県環境フェスティバル

日時：令和 5 年 2 月 18 日(土)、19 日(日)　10:00～15:00　（予定）

場所：Ｇメッセ群馬（高崎市）

内容：アドバイザーの各部会・委員会と全体の展示予定（スペースは３ｍｘ３ｍ）

※詳細は 1 月の定例文で通知します。

編集後記

昨年はパンデミックやウクライナ侵攻などの難題があり、環境問題への意識が薄れていくことが心配でした。そのような中、NHK の教育番組で生物の多様性に取り組むオランダの市民活動の紹介がありました。ここでは生ごみをコンポストにして街中の小さな空き地で様々な植物を育て、廃材などを束ねて生きものの住みかを作るなど、生物を呼ぶための環境を作っていました。これに対し、わが国では化学肥料を多用し、除草剤や殺虫剤を使用するなど人間中心の庭づくりが主流です。生物多様性の維持に関してヨーロッパとわが国の考え方の違いを感じました。私たち人間は、様々な生物の助けを借りて生きている動物の一種であることを改めて学ぶ必要があるのかもしれません。　井上記

ＧＮの発行予定および問い合わせについて

グリーンニュース（GN）は年 4 回発行します。各号のレイアウトは 3 月、6 月、9 月、12 月の編集会議で決定される予定です。掲載したい原稿などございましたら下記にご連絡ください。

群馬県 環境政策課 環境政策係　環境サポートセンター　角張

〒371-8570　前橋市大手町一丁目１番１号

TEL 027-226-2827　FAX 027-223-0154　E-mail：kakubari-toshiaki@pref.gunma.lg.jp